

低体温症：野外での対応

編集：UKDIMM,FAWM 大城和恵
Ver.2017.1

Swiss staging による ICAR(国際山岳救助協議会)勧告(2003, 2013),
2015 ERC Guidelines for Resuscitation
American Heart Association 2015 Guideline
State of Alaska, Cold injuries Guideline2003(revised2005),
Auerbach Danzl 2012
Accidental Hypothermia 2012 NEJM
Wilderness Medical Society practice guideline Hypothermia (2014update)
Brown DJA.Hypothermia. Tintinalli Emergency Meicine 8th ed.

参考体温 (°C)	震え	意識	脈・呼吸	重症度	対応・処置
35-32	あり	正常	良好	軽度 I	カロリー補給 水分補給 温まれば運動可 通信手段確保
32-28	低下 /なし	異常 /低下	低下	中度 II	安静・水平 救助要請
28-24 28>	なし	なし	さらに 低下	高度 III	病院搬送 (循環不安定者は ECLS施設へ)
24-15 多様	なし	なし	呼吸なしand 脈触れず	重度 IV	気道管理 心肺蘇生※

隔離

保温

加温
(体幹湯たんぼ)

ポイント：震えが低下、あるいは意識が正常でない⇒中度以上（一気に悪化することがある）
致命的外傷があるか胸が硬く凍り付いている場合のみ、死亡として矛盾しない

加温：胸（体幹）を優先して加温する
接触面積を大きくして熱源をあてる

心肺蘇生 救助者が安全で、搬送を遅らせない場合に行う
蘇生限界まで体温が下がらないように、隔離保温加温を必ず行う